

1 学校教育目標

『夢や志をもって、未来をたくましく生き抜く児童の育成』

- ◇校訓 **創造** よく考える子（自ら考え、学び合う子）
連帯 助けあう子（感謝や思いやりの心を持ち、ともに励む心豊かな子）
自立 たくましい子（夢に向けて実践する強い意志、体力をもつ子）
情操 すなおな子（耳を傾け、元気にあいさつ、正しい言葉遣いのできる子）

◇研究主題（令和5年度 中・西播磨地区小学校社会科教育研究会テーマ）

「みんなで分かる みんなで決める」

～ 他者との対話を通して、納得解を追究することができる児童の育成 ～

2 学校経営の基本方針

- (1) 自ら学ぼうとする意欲、「ことばの力」を高める授業づくりを推進し、「納得解」を追究する対話を通して、確かな学力の育成を図る。
- (2) 相手の立場になって想像し、共に支え合う学級・学年・学校づくりを推進する。
- (3) 赤穂義士をはじめとする地域の歴史・文化・人々とのふれあいを通じて、地域と共に歩む「城西大好きっ子」を育てる。

3 重点努力・実践目標

(1) 個を生かす学習指導の充実

- ① 学ぶ楽しさ、わかる喜びを味わえる授業づくりを推進する。
各教科及び各単元の目標を明確にし、自分事として「納得解」を追究する子供同士の対話や学び合いを通じて、自らの学びを実感できる楽しい授業づくりを行う。
- ② 個に応じた適切な指導を行う。
ア 適切なアセスメントに基づいた特別支援教育におけるさまざまな個別支援の手法を援用し、授業のユニバーサルデザイン化を図りながら、個に応じた多様な指導方法の工夫改善を行う。
イ タブレット端末をはじめ ICT 機器を活用した授業改善を推進し、一人一人の習得状況を踏まえた指導方法の在り方を探る。
- ③ 基礎・基本の定着を図る。
ア 兵庫型学習システムを活用した外国語・理科専科によるきめ細かな指導、教員の専門性を生かした指導の充実を図る。
イ 1・2学年においては、「コグトレ」を導入し、身体面・学習面・社会面についての認知トレーニングを学習タイム等で行い、学びに向かう意欲を高める。
ウ 国語・算数の「ひょうごつまずきポイント指導事例集」を活用し、社会科をはじめとする他教科における指導も見据えた指導方法の工夫改善に取り組む。

④ 思考力・判断力・表現力等を育成する。

- ア コミュニケーションや感性、情緒、知的活動の基盤となる「ことばの力」を各教科等において育成する。
- イ 児童自らが疑問や矛盾、課題を発見し、解決に向けて主体的に学ぶ学習を取り入れた授業を行う。
- ウ 習得した知識を活用した根拠に基づく判断を促し、対話による「納得解」を作る学習を設定する。

⑤ 学習意欲・学習習慣の定着を図る。

- ア 自分事として興味関心を喚起する課題設定や、互いの学びを認め合う活動等により、わかる喜びを実感させ、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育てる。
- イ 自分と他者の考えの違いをもとに、「視座の転換」を図る納得解を追究する学習を通して、自らの学びをメタ認知し実感できる指導方法の工夫改善を図る。
- ウ 家庭学習の手引きをもとにその方法を周知し、家庭の協力を得ながら自主学習、自学ノート等の指導を通して、学習習慣の定着を図る。

⑥ 「義士教育」の充実を図る。

6年生になれば、全員演劇「子ども義士物語」の上演を行うゴールを見据え、「赤穂義士について語り、伝えることのできる城西っ子」のふるさと意識醸成を図る。

⑦ 情報教育を推進する。

ICT機器を活用した効果的な学習及びプログラミング教育の充実を図るとともに、保護者も含めた SNS 等における情報モラルの指導を徹底する。

⑧ キャリア教育を推進する。

これからの未来社会の形成者として、自分が果たす役割を考え、キャリアパスポートを活用して自分の夢や志を再認識して、社会的自立に向けた態度や能力の育成を目指す。

⑨ 保・幼・小・中の連携を推進する。

小一プロブレム、中一ギャップにも対応できるよう特別支援教育コーディネーター及び連携部会を中心として、子供の育ちを踏まえた縦の連携を図る。

(2) 豊かな人間性の育成

① いじめのない安心できる「心の居場所づくり」を推進する。

- ア 自分の考えや悩みを安心して出し合える学級、感謝の「ありがとう」がこだまする学級、授業で自分の思いを自由に伝え合うことができる学級づくりに努める。
- イ 授業や学校行事、その他の諸活動を通して達成感を味わわせるとともに、集団の中で個性や特性に応じた役割を担わせ、相互評価によって自己有用感を高める工夫を図る。
- ウ 児童の悪ふざけ、じゃれあいといった日常生活の中にいじめの要素はないか、いじめの積極的認知を推進し、その解消（3ヶ月後）まで見守り続ける意識を定着させる。

② 学校の全教育活動を通じた道徳教育の充実を図る。

- ア 道徳科を要として、全教育活動の中での日常の学びを大切に、子供達の内面に根ざした道徳性を養う。
- イ 県教育委員会作成の指導資料等も活用し、指導のねらいに即した多様な指導方法を研究する。

③ 学校の教育活動全体を通じた人権教育を推進する。

- ア 「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」が一体となった学校全体としての取組を推進する。
- イ 人権尊重の視点から、環境の美化や言語環境等隠れたカリキュラムの整備に努める。

④ 特別支援教育の充実を図る。

- ア 特別支援学級在籍児童の実態に応じた指導の充実を図り、能力や個性を最大限伸ばすとともに、交流及び共同学習を通して、自立心・社会性を養う。
- イ 障害種別ごとの特性、通級指導の内容など、特別支援教育についての正しい理解を深めるため、積極的な情報発信を通して児童や保護者への理解啓発に努める。
- ウ 校内支援体制を確立し、合理的配慮の観点を踏まえた指導計画の作成と適切な支援により、特別な支援を要する児童の課題克服に努める。
- エ 共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育システムの構築に向け、副籍の取組及び「居住地校交流」を推進するとともに、放課後等サービスやアフタースクール等の関係機関との連携をさらに充実する。

(3) 強い意志とたくましい体づくり

- ① 体育科授業の充実といのちを感じる保健安全教育の充実により、健康安全と生命を育む体力・気力づくりに努める。
- ② 心と体の健康を第一に、感染症対策や熱中症対策、アレルギー対応等、児童の活動及び個人差も考慮したきめ細かな保健指導を進める。
- ③ 自ら身を守り安全を確保する能力を育成するため、交通安全教室、防犯教室等を実施する。また、発達段階に応じてAEDを含めた心肺蘇生法等の講習を実施する。
- ④ 今後、発生が予測される南海トラフ地震の被害想定を踏まえ、「命を守る」防災教育の推進及び1週間は単独運営可能な避難所機能の充実に向け準備を進める。

(4) 家庭・地域とのつながり・信頼・連携の促進

- ① 地域コミュニティの中核及び防災の拠点としても機能する学校の存在意義を広く地域住民にも啓発し、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を中心に、地域から信頼され地域と共にある学校づくりを目指す。
- ② オープンスクール、授業参観だけでなく、学校ホームページ等を通して学校の情報を適切に提供し、信頼が寄せられる開かれた学校づくりを推進する。
- ③ 家庭と連携し、中学校区で統一した「早寝・早起き・朝ご飯」「ノーテレビ・ノーゲームデー」の取組、SNS等の正しい利用について啓発を推進する。
- ④ 学習支援ボランティアなど、地域人材活用バンクを活用した教育資源の活用を図る。

(5) 学校の組織力及び教職員の資質・能力の向上

- ① 教職員全員がやりがいを持ち、笑顔で語り合えるチームを構築する。
- ② ポストコロナを見据えた会議や研修の見直し、学校行事の精選をさらに進め、教職員のワークライフバランスの確立、笑顔で元気に児童と向き合う時間の確保を図る。